

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

会長就任に当たって

会長 茂木賢三郎

日本ボストン会会員の皆様には、お元気に輝かしき2001年をお迎えのことと存じ、お慶びを申し上げます。本年最初の会報ですから、いささか遅まきながら、まずもって新年のご挨拶を申し上げる次第であります。

昨年の総会におきまして、私は高木会長の後を受けて会長に選出されました。とても適任とは思えませんが、皆様のご支援を戴いて、一緒にこの会を一層楽しく活発なものにしたいと念願しております。

昨年中は日本ボストン会の活動に積極的にご賛同・ご参加をいただき、まことに有り難うございました。この機会に高木前会長のリーダーシップに、改めて心からの敬意と感謝の念を表します。また、当会がいろいろな楽しいイベントを企画・運営し、また会報などを発行できますのは、それぞれを担当してくださる副代表幹事をはじめ多くの皆様のご尽力の賜物であり、厚く御礼を申し上げたいと存じます。

ご高承の通り、この会は何らかの形でボストンに縁のあった「ボストン大好き人間」のグループであります。本年もまた皆様と楽しい集いが持てますことを期待しております。

ところで、申すまでもなく今年は新世紀の始まりであります。そして、一年前にあれだけのミレニアム騒ぎがあったにもかかわらず、正しくは新千年紀(ミレニアム)スタートの年でもあります。地球の自転と公転によってもたらされる一年というサイク

ルに特段の差があるわけではありませんが、人間のつくった暦という約束事の大きな節目ともなれば、人類社会の未来を展望するのに相応しい時期といえましょう。

なぜこんな気持ちになるかといえば、これも実は私とボストンとの関わりに由来するのです。私は1971年から2年間ハーバード・ビジネス・スクールで学んだのですが、73年の卒業式の式辞で当時のデレク・ボク学長が、世界人口の5%強のアメリカ人が、世界の資源の相当なシェアを消費している状況に対して、大きな疑問を投げかけたのです。

あの有名な「成長の限界」が出た直後のことですが、この本はその後経済学者の多くから悲観論との批判を受けました。しかし、地球環境は悪化の一途をたどり、いまや人々はこれを無視できなくなっております。問題の本質は、人間の活動から生ずる地球への負荷が、いろいろな徴候から見て、地球の対処能力すなわちキャパシティを越えつつあるように思えることでしょう。

日本ボストン会にはいろいろな専門領域の方がおられます。この節目の年に、みなさんとういう問題も考える機会を持てたらと考えております。2001年が、そして新世紀が、皆様にとって素晴らしいものでありますことをお祈り申し上げ、会長就任のご挨拶といたします。

日本ボストン会イベント

観桜会(千鳥が淵)

4月8日(日)(2頁参照)

親睦ゴルフ会(泉カントリー倶楽部)

4月19日(木)(7頁参照)

10月18日(木)

美術の会(名古屋ボストン美術館訪問)

7月14日(土)(3頁参照)

歴史を飲もう会(札幌訪問)

初秋(7頁参照)

総会

11月16日(金)

会長を退くに当たって

前会長 高木政晃

会員の皆様にはお元気でご活躍のことと思います。昨年11月の総会で会長を茂木賢三郎氏に無事引き継ぎました。任期2年、計らずも20世紀の終わりに巡り会いました。

21世紀は茂木新会長のリーダーシップのもと私たちの日本ボストン会が大きく発展することを願っています。

会員、副代表幹事、幹事の皆様には親しいお付き合いとご協力をいただき心から感謝申し上げます。

多くの分科会活動に参加でき、楽しませて戴きました。その活動については会報に報告されていますので、ここでは触れないことにします。

会員の数を増やし当会発展のエネルギー源にしたいと思いましたが、まだ実績が上がっていません。幸いにしてボストンより帰国されたばかりの滝沢典之氏が新入会員勧誘担当幹事として意欲充分であり、その活動に期待しております。

関連団体との交流の場を拡げることは当会にとって有意義であると思います。

ボストン地区に居住される方々、とくに「ボストン日本人会」とは今後は更に交流を深めていくことになるでしょう。

「北海道・マサチューセッツ協会」とは既に交流が進み、藤盛副代表幹事が担当して交流に当たることになり、更なる進展が期待できます。

一方、「京都ボストン交流の会」が関西地区で活発に活動しています。昨年私が京都に旅行中、幹事の方々と夕食会、また総会に出席いたしまして、今後交流を積極的にしようと合意しました。会長の榊原胖夫(やすお)先生より当会会報(16号)にご寄稿していただき「京都ボストン交流の会」の活動状況の紹介がありました。

感じましたのは会員の方々が多士済々であることです。大学の先生、医師、弁護士、企業と各種法人の方々に加え、茶道、華道、フラワーアート、香道、邦楽、京人形などの先生方、市役所の方が参加されております。バランスのよい和漢洋の文化を身につけた方々の集いは京都の秀れた多様性の文化の特徴

2001年のお花見への

お誘い

21世紀の第1回お花見を下記の要領で開催いたします。春爛漫の桜の下で夜桜を楽しみましょう。

今回はボストン日本人会の「いこいの場」の里帰りグループの方々も参加されます。吉野先生の奥様や吉野屋の古川さんも同行され、他にこのグループ関連で日本からも3名参加され、総勢10名参加されます。

例年30名程度の参加を頂いていますので、今年は40名近い参加になる予定です。

幹事は午後5時から5時半までの間、「千鳥が淵」、フェアモントホテルの前で皆さんをお待ちしております。参加ご希望の方は幹事(藤盛)までご連絡下さい。(締切り 3月30日金曜日)

小雨決行です。雨の夜桜も良いものと思います。

記

集合日時: 2001年4月8日(日)午後5-5時半

集合場所: 「フェアモントホテル」前

千代田区九段南2-1-17(千鳥が淵)

(地下鉄「九段下駅」2番出口より徒歩)

宴会開始時間: 午後6時半(予定)

会場: ダイヤモンドホテル内

レストラン プルメリア

千代田区一番町25番地 ☎ 03-3263-2211

(地下鉄半蔵門線「半蔵門駅」出口階段上がる)

申込み先: 藤盛紀明、富美子

と思います。これらの方々と交流を深めることは有意義なことと思います。

当会での「京都ボストン交流の会」との交流担当幹事は幸野真士氏に決まりましたので、交流の発展が期待できると思います。

以上会長を退くに当たり所感を述べさせていただきました。在任中の会員の皆様方のご協力に感謝いたしますと共に、日本ボストン会の一層の発展を皆様と共に願ってやみません。

名古屋ボストン美術館の見やすさ

名古屋ボストン美術館館長 浅野 徹

少し前に書いたことだが、昨年夏のこと、ある年輩のご婦人が名古屋ボストン美術館に初めてこられ、大変満足して帰られた。アメリカに旅行され、ボストン美術館を既にご覧になられていたが、名古屋の方がずっと見やすかったと言うのである。この“見やすかった”という感想を持たれた理由のひとつに、美術館の規模の大きさもかかわっている。

日本ボストン会の皆さんは、ボストン美術館やさらに規模の上回るニューヨークのメトロポリタン美術館をご覧になったであろうし、おそらくヨーロッパ各地の名高い大美術館に行かれた方も多いに違いない。美術館の建物の大きさと展示されている美術品のあまりの量の多さに、しばしば唖然としたという経験をお持ちの方も少なくないのではなかろうか。

私自身は専門家の端くれでもあるが、訪れようとする美術館の性格なり特徴を前もって頭には入れている。それでも、実際に当の美術館を目の当たりして唖然としたことはしばしばである。気持ちを鎮めて、まずは持参の案内書なり美術館の入口辺にある館内マップなりによって、自分の一番見たい作品なり部門なりのありかを確認する。次いで目的場所へと急ぐ。その間に幾つもの展示室を通るわけだが、時間の限られている時は、途中で心惹かれるものがあったとしても、足を止められずに横目で流し見るほかない。宝の山に踏み込みながら、殆どは持ち帰れないというような心境にもなるのは、そんな時である。

ルーブル美術館などで、ガイドに引率された団体客がミロのヴィナスを見た後で、周辺の彫刻には目もくれず、今度は階上のモナリザへと急いで移動するのによくでくわすが、実のところ私の美術館の見方もそうした観光客と大差ないのかも知れない。

それはさておき、名古屋ボストン美術館が見やすいというのは、単に小規模の美術館だからというだけではない筈である。次回にその点に触れてみたい。

浅野 徹 (あさの とおる)

東京教育大学教育学部美術科卒。東京国立近代美術館美術課長、愛知県美術館館長などを経て、現名古屋ボストン美術館館長、名古屋芸術大学教授。

中村 芳 画集(日動出版部)など著書多数。

美術の会主催

名古屋ボストン美術館への旅

一昨年ご好評をいただきました名古屋ボストン美術館鑑賞の旅を、今年2年ぶりに企画いたします。夏の尾張路、皆様ふるってご参加ください。

*日程

7月14日(土)

午前 [展示鑑賞“紅茶とヨーロッパ陶器の流れ”]

午後 13:15集合[美術館レクチャールーム]-15:00

浅野徹名古屋ボストン美術館館長講話

企画展関連ビデオ上映他

18:00 懇親会

7月15日(日)

9:30~14:00 [名古屋市見学/観光計画中]

*宿泊

名古屋ボストン美術館隣接

全日空ホテルズ“ホテルグランコート名古屋”

(割引料金適用の予定)

*参加費用

7,000~10,000円/人(懇親会・移動等共通経費)

当日、参加者の人数割り、実費負担。

名古屋までの往復交通費、ホテル代、朝食・昼食代等は参加者ご自身でご精算願います。

*参加申込:

全行程、または部分参加、いずれも結構です。

ご都合に合わせてお申込み下さい。

[申込・問合せ]

佐藤文則(勤務先: (株)MSA)

*申込締切: 2001年5月21日(月)

名古屋ボストン美術館第5回企画展

“紅茶とヨーロッパ陶器の流れ”

17世紀に東洋から西洋にもたらされたお茶。その普及とともに発展したマイセン、セーヴル、ウエッジウッドなどの陶器、銀器、版画などの200点紹介。

華麗で豪華なヨーロッパ陶器の展示に加えて、18世紀の衣装、ティーパーティのテーブルセッティングなども再現予定。

The Massachusetts-Hokkaido Sister State Affiliation 10th Anniversary Seminar (Oct. 24, 2000 Sapporo)

“Musical Education in the United States”

A Lecture by Tiger Okoshi, Associate Professor
Brass Department, Berklee College of Music

Let me introduce myself first. I was born in 1950, the year of the tiger in Chinese astrology. That's why I use "Tiger" as a stage name. I was awakened to jazz when I was a junior high school student and started playing the trumpet. At the age of 22, I decided to go to the United States to study jazz in order to become a professional musician. After arriving at Los Angeles, I boarded a transcontinental bus bound for the east. I resolved to build myself up from the beginning in this country. At the same time, I was determined not to return to Japan until I had achieved my goal.

Having neither money nor friends in Boston, I enrolled in the Berklee College of Music. As I informed my father about my decision by an international phone call, he immediately disowned me. I did not speak any English at that time. Conditions were very severe both economically and mentally; however, now I think that the hard situation was the very reason for making me become absorbed in music. As a result, I graduated at the head of my class. At that time, I realized that if you had a strong idea about what you would like to become, and made an effort toward that purpose without any compromise, you would be surely recognized by the public. Luckily I made my jazz debut in the United States as a curtain raiser of Bill Evans Trio at Carnegie Hall. Now I am teaching trumpet at Berklee College of Music and Tufts University.

Today, I would like to talk about musical education in the United States, which I have experienced in Massachusetts so far.

One of the characteristics of American education is attaching importance to "diversity." For example, playing music, it is impossible

to make beautiful harmony without various kinds of instruments. This way of thinking is also applied to human society. From this point of view, the individuality of each of the children is regarded as most important. Therefore, it is very common to divide the pupils into groups according to their own ability. Also, it is not unusual for children born during the first three months of the year to remain in the same class. I suppose, in Japan, no teacher can follow such procedures in class for fear of complaints from the parents.

Paying attention to the opinions of students, teachers frequently make them write essays in class. Also, students can choose what and how to study at school to some extent. For example, I have heard that it is difficult for children to belong to both sports and music clubs in Japanese schools, but not so in an American school. Teachers should change the educational system as students needs arise. I think this is an important role of educators.

As to the other major difference between American and Japanese education, I would like to refer to the system of evaluation. Not only students, but also teachers are in the position to be evaluated in the American educational system. Teachers must take the training program called "Teachers on Teaching" to learn how to cope effectively with problems of every kind among students, and they are often evaluated by their students through questionnaires. I think this mutual-evaluation system is very good for both sides.

Five years ago, I came face to face with great earthquake in Kobe while I was returning home. After that tragedy, I was so depressed that I could not (To be continued on page 5) ↗

Massachusetts-Hokkaido Sister State Affiliation 10th Anniversary Events

Governor Celluci Visits Hokkaido



▲ Governor Celluci's Speech



▲ Welcoming Reception

The Massachusetts delegation to Hokkaido, consisting of 28 people, including Argeo P. Celluci, Governor of Massachusetts, and 13 trade mission members, visited from November 28 to 29 to celebrate the 10th anniversary of the Hokkaido-Massachusetts sister state affiliation.

They were welcomed by a Wadaiko performance, Japanese traditional drums, at a reception

sponsored by Tatsuya Hori, Governor of Hokkaido.

Later, they had a meeting with Mr. Michael Meserve, American Consul General to Sapporo, and Mr. Norihiko Tamba, President of Hokkaido University, and attended a luncheon sponsored by Yoshiro Ito, Chairman of the Federation of Hokkaido Chamber of Commerce and Industry.

They also promoted cranberry products at supermarkets in Sapporo.

Sister State 10th Anniversary Events in 2001

- * Massachusetts Children's art gallery(NHK Gallery)..... Feb. 2-8
- * Massachusetts delegation welcomed to Hokkaido..... Feb. 3-9
- * Economic Development Seminar, Sapporo..... Feb. 8
- * 10th anniversary publication..... Mar. 17

"Musical Education in the United States"

(Continued from page 4)

play music any more. I kept on asking myself: I have learned music, but have I learned about human beings? One day, after several months, I heard some pieces of music. They sank deeply into my mind. Then, I discovered that music has a strong power to cure people who are overwhelmed.

From this experience, I began to consider what I could do for society through the playing of music. That is how I started working with musical education for autistic children* at Boston Higashi School. *(自閉症児)

Finally I would like to add one more thing. Imagination is indispensable to good education. When it comes to talk about studying music, it

reminds me of a long journey with a special aim. I am always telling my students to imagine what they would like to become in 10 years. Believing in yourself and practicing are important to the realization of your dreams. Then someday your dream will come true.

That is what I would like to let the children know.

(講師 タイガー大越氏 略歴)

1950年、兵庫県芦屋市生まれ。関西学院大学を卒業後、渡米。パークリー音楽院を首席で卒業。現在、同音学院教授。

世界的なジャズトランベッターとして各地で演奏活動を展開している。ボストンミュージックアワード受賞。阪神タイガース応援歌、JT「キャビン」CF、ボストン東スクール校歌の作詩・作曲家でもある。

(注 北海道・マサチューセッツ協会英文会報

"HOMAS" Newsletter No. 11, November 2000 より転載)

Union Square (N. Y.) "14th Street" の画家達

20世紀初め、同世代の画家たちはArmory Show* (国際モダンアート)のまだ興奮さめやらぬNew Yorkに特別な魅力を感じていた。都会主義ヒューマニスト画家(14th Street Schoolの創始者)と呼ばれたIsabel Bishop、Minna Citron、Reginald MarshそしてSoyer 3兄弟もNew Yorkをことのほか愛した画家たちであった。

Union Square 14th Streetに行き交う無名の市井の人々に共感を覚え絵筆を握り続けたおしゃべりする学生達、憩う家族、そして職を失った人々にさえも画家たちの魂は強くゆさぶられるのであった。彼等スタジオ内のモデルは普通の人達であった。

ある日のこと、Raphael SoyerはUnion Square辺りで仲間達と一緒に描くモデルを探していた所、地下鉄の切符売り場付近にボール紙を敷き、その上に横たわっている男に気がついた。

「そんな所で一体何をしているんだい」と思わず声をかけた。男は「ここではベニー、ニッケルを沢山見つけることができるのさ」と静かに答えた。

二人の会話はいつしかアメリカDepression(1929年10月アメリカに始まり30年初めまで続いた世界経済不況)にまで及んだ。話しているうちにRaphaelは男が一番最初に不況のあおりを受けた失業者とわかった。風貌もさることながら、絵になる性格とみたRaphaelはモデルにと切望した。男はただじっと坐っているだけで25¢の給金が貰えると喜ぶ。彼はモデルとして、献身的であり、仲間の画家達に信頼され、長く続いた。

*Armory Show(国際モダンアート展)、New York, 1913

3分の1は外国からの作品(象徴主義派、印象派、後期印象派、フランス現代アート等)が展示され、30万人が鑑賞した。

その仲間の一人 Isabel Bishop は16歳の時に絵の勉強にOhioからNew Yorkにやってきた。1930年、28歳の時、才能を認められ後



"Two Girls"

もひたすらUnion Squareの人々への思いをキャンバスにぶつけるのであった。

Bishopの作品"Two Girls"(1935)はUnion Squareを通り過ぎる若いOffice Girlsを描いている。一人が何やら真剣な顔で相手に話しかけている。1930年代のファンシーな洋服と帽子を身につけた豊富な姿はヨーロッパからの移住者である祖母から受け継いだものとして画家は描いている。簡潔的スケッチ的作品であるだけにかえてその時の心情の一面を生に伝えているのかも知れない。画家Bishopのスタジオの窓からUnion Squareの人々の喜び、悲しみ、失望を描くこと50年以上であった。

1896年 New Jersey に生まれたMinna Citronも又、1930年頃、14th Street にスタジオを持ち、その後Bishopと同じビルに移った。

1930年、ほとんどの彼女の作品はグループをテーマにした作品である。The Clinic(1931)は皆、ベニーの誕生を誇らしげに見守っている。

CitronもBishopも人への思い入れは同じだが、Bishopの多くの作品にストーリー性はなく、瞬時にして動く姿を描いた。観察が的確であるばかりでなく、人物の内面をとらえようとする態度が窺える。

Citronの作品には物語り性があり、バランスの取れた構成の中に、人々に表情を持たせた。見る人は絵のなかにユーモアを感じ思わず顔をほころばせる。社会とのかかわりあった多くの彼女の作品はウィットに満ちている。(続く)

美術愛好会 酒井典子



"The Clinic"

ゴルフ会の報告

日本ボストン会のゴルフ懇親会は、とても良いコースでプレーができ、その上ハンディと皆様の温かいご協力により思いもかけず優勝してしまい我ながら驚いております。

「飛距離もスコアも夫に三歩さがり従いつつ」をゴルフのモットーにしていた私にとって、2位の夫にはちょっぴり申し訳ないと思っておりますが、何はともあれ、ワンツーフイニッシュで私たち夫婦がゴルフコンペの賞品を独占してしまいました。

ゴルフを始めて4年になりますが、やればやるほど奥の深さを感じます。人生そのもののように感じる時もあります。年間40数回、ゴルフ場に通っている割にはなかなか100を切れず、あまり上達しませんが、健康のため、ストレス解消のため、夫婦の話題づくりのため、できるかぎりいろいろなところでプレーしたいと思っています。

今回の春のゴルフ懇親会ではいつものお顔に会えることを楽しみにしつつ、90台前半を目指して次ぎなる闘志をひそかに燃やしています。

松澤美知子

2000年第2回ゴルフ懇親会は10月26日(木) 泉カントリー倶楽部において開催致しました。

18名のご参加があり、結果は次の通りでした。

松澤美知子(優勝)、 松沢宏親(2位)、
山崎 恒(3位)、 土居陽夫(4位)、
幸野真士(5位)、 西川文夫(6位)、
近藤宣之(7位)、 山崎規矩子(8位)、
土居嘉子(9位)、 當間秀雄(10位)、
藤盛紀明(11位)、 吉田久夫(12位)、
磯崎一郎(13位)、 荒金 豊(14位)、
當間きよみ(15位)、 吉見吉昭(16位)、
酒井一郎(BB)、 藤盛富美子(18位)。

本年の懇親ゴルフ会は次の予定です。

4月19日(木)

10月18日(木)

泉カントリー倶楽部

申込み先 近藤宣之

申込み締切: 4月分は3月末日(先着順)

10月分は9月末日(先着順)

歴史を飲もう会予告

初秋の札幌旅行

新世紀に入った本年は、米国マサチューセッツ州と姉妹提携関係にある北海道札幌市への訪問を検討中です。

同地には、明治初期の開拓時代に、札幌農学校初代教頭として活躍したウィリアム・スミス・クラークや、時計台、道庁旧本庁舎「赤レンガ」などその頃に関連した記念像、建造物が豊富に見られ、日本とニューイングランド交流の歴史を学ぶ上で必見の地と言えます。

又、北海道・マサチューセッツ協会が同市に存在し、毎年秋の当会の総会には事務局長の方にご出席頂いていることは周知の通りです。今回の訪問時に同協会の方々との交流なども実現出来ればとも思います。

時期は、市郊外が紅葉で色づく初秋の頃を選び、一泊の旅行を考えております。

本年6月頃までには日程なども具体化させたいと考えておりますので、ご参加に関心をお持ちの方は、5月末までにお申し越し願います。

問合せ先: 篠崎史朗

新著紹介

関 直彦著

日本の皆さんに知って欲しいこと

「永遠の友」

[ピーボディ・エセックス博物館と日本]

魔女狩りで有名な米国北東部の町セーラム。200年も前にこの町から東方の富を求めて鎖国日本にやってきて知られざる交易を繰り返した、好奇心に満ちた船長たち。彼らが作った最古の博物館で、大森貝塚を発見したモース博士が育て上げた世界最大の日本民俗コレクション。日本庶民文化の恩人・守護者となった希有な博物館のものがたり。

出版社: リンガシスト

発売元: 星雲社 ☎03-3947-1021, FAX03-3947-1617

A5版 164頁、売価 1,450円(消費税別)

日本ボストン会2000年度総会

日時 2000年11月10日(金)午後6時半

場所 NEC三田ハウス 芝クラブ

議事 代表幹事交代挨拶、乾杯、活動報告、会計報告、W.G.、関係団体活動報告、参加者挨拶。

出席者 32名

遠隔地出席者紹介

増淵興一先生夫妻(ボストン日本人会)

中垣正史氏(北海道・マサチューセッツ協会)

新会員紹介

伊藤道生氏、山崎恒氏。

第8回総会は土居副代表幹事の挨拶にて開会した。高木政晃会長より会員増加および「京都ボストン交流の会」との交流に努めた旨のご挨拶があり、続いて、各W.G.報告がおこなわれました。この後、高木政晃会長が、この総会で後任会長に茂木賢三郎副代表幹事、およびその次の会長候補に井口武夫先生を推薦され、承認されました。

第8年度(99.9.1/00.8.31)会計報告は棚橋氏から次の報告があり、承認されました。

総収入¥336,535、総支出¥310,179、残額¥26,356(資産:銀行預金、郵便貯金、貯蔵品合計¥841,356)

藤盛副代表幹事よりこれからの1年間の活動として、幹事会は希望者はだれでもが参加出来る会として年3/4回開催、観桜会、ゴルフ会年2回、会報年2回発行が提案され、承認されました。この後で、茂木新会長のご発声で乾杯、懇親会に入りました。

席上、出席者からもご報告を戴きました。

中垣正史氏からは9月10日から17日まで、約120名の大訪問団がマサチューセッツ州を訪問し、北海道・マサチューセッツ州の姉妹州提携10周年記念公式行事のメインイベント事業「姉妹交流促進宣言書」に、堀達也知事とアルゲオ・P・セルッチ知事が署名する行事とレセプションがステートハウスにて開かれた他、ボストン、アムハーストにおける多くの行事に参加したこと、年明け2月にはマ州からの訪問団を受け入れる旨のご報告を戴きました。

滝沢典之氏からは、ボストン日本語学校創立25周年事業への日本ボストン会関係者の募金によるご協力への謝意が述べられ、本年4月から10月にかけての記念行事の紹介報告がありました。

増淵興一先生からは、日本語学校の発足時には武

田さんのご好意でNECの一部をお借りして始まり、その後MITのキャンパスにもぐり込んで続け、児童がキャンパス・ポリスに咎められたことが契機で、原田さん(MIT)が柔道を教えられていたメドフォードに学校を移したご苦労話が披露されました。

山田敬蔵氏は11月30日、73歳になられますが、今でも毎日走っていて、11月26日のリスボンにおけるマラソンに参加する旨報告されました。

藤崎博也先生は明年3月に理科大学を定年退職するが、文部省のプロジェクトに参加している関係で、東大に3年程もどる旨のご報告を戴きました。

井口武夫先生は文化の日に、勲二等瑞宝章を受賞される栄誉をお受けになられましたので、席上、当会としてのお祝いを差し上げました。

関直彦氏から「日本・ニューイングランド交流の記録」200冊出版は、ほぼ収支を償う形で終わったので、残部はボストン日本人会に寄付したい旨の報告がありました。又11月17日からピーボディ・エセックス博物館にて開催される「日米交流あけぼの展」には、小林学芸員が設営に赴かれるが、日本から20名程のツアーが計画されている旨の報告もありました。(尚、関氏は「永遠の友[ピーボディ・エセックス博物館と日本]」と題された研究書を星雲社から発売されました。別項7頁参照)。

最後は、當間きよみ副代表幹事のご挨拶で、来年の再会を約して和やかな懇親会を閉会いたしました。

幹事会報告

2000年12月5日(火)出席者(16名)

*挨拶(茂木賢三郎会長よりのメッセージ配付)

*乾杯 高木前会長

*歴史を飲もう会(札幌、又は大津)(別項参照)

*お花見の会(4月8日、別項参照)

*ゴルフの会(4/19、10/18別項参照)

*美術の会(名古屋ボストン美術館、別項参照)

*関係団体の担当変更

北海道・MA協会: 藤盛紀明(俣野善彦)

名古屋ボストン美術館: 酒井一郎・佐藤文則

京都ボストン交流の会: 幸野真史(俣野善彦)

*総会反省: 叔ト帰国者同窓会の形が取れないか?

2001年2月26日(月)出席者(14名)

*新会員: Mr. P. M. Grilli, Japan Society of Boston

*会報第18号発行: 原稿8月末締切、10月初め発行。

*次回幹事会6月19日(火)、総会11月16日(金)